

第55回社会福祉セミナー

社会福祉における “生と性”をめぐる今日的課題

主催 公益財団法人 鉄道弘済会 後援 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

「性」は人間の基本的な欲求であると同時に、人が豊かに生きていくうえで欠かすことのできない重要な要素である。つまり「性」の問題は、その人の「生」にかかわる問題であると言ってよい。それゆえ、人びとの「生」を支える社会福祉の現場では、常にさまざまな形で「性」をめぐる問題に直面する。しかし社会福祉の実践や研究で、「性」について取り上げることは長らくタブー視されてきた。各種の福祉制度において人びとの「性」にかかわるニーズが顧みられることはなく、社会福祉・介護の専門職養成で「性」の問題が正面から扱われることもなかった。

一方で、近年、高齢者や障害のある人の性、性的マイノリティの人びとへの支援、あるいは性風俗産業に従事する人びとへの福祉的支援の動きなど、社会福祉と“生／性”にかかわる新たな実践と議論が活発化しつつある。人びとの「生」に向き合う社会福祉は、「性」の問題をどうとらえ、いかに対応していくべきなのか。社会福祉関係者はこうした課題について、オープンな議論を進めることが求められている。

そこで、本セミナーでは、社会福祉施設や地域における実践の最新動向も踏まえながら、社会福祉の生と性をめぐる現状と課題、今後の展望について考える機会としたい。

●期 日 2018年7月27日(金)

●会 場 有楽町朝日ホール(東京都千代田区、有楽町マリオン11階)

●定 員 600名(定員になり次第締切) ●受講料 4,000円(学生は1,000円)

申込方法

鉄道弘済会ホームページ (<http://www.kousaikai.or.jp/>) からお申し込みください。同封の申込書にご記入のうえ、郵送またはFAXでのお申し込みも承っております。

お申し込みとともに、受講料をご送金ください。

■受講料の送金方法

- ①銀行振込 みずほ銀行 本店
(普通) 2155069
口座名 公益財団法人鉄道弘済会
- ②郵便振替 00140-8-143594
口座名 公益財団法人鉄道弘済会
振替用紙の通信欄に住所・氏名をご記入ください。
- ③現金書留 同封の申込書に必要事項をご記入のうえ、お送りください。

※受講証および領収書は、**7月2日(月)**から順次発送いたします。

※納入後の受講料は返却いたしかねますので、ご了承ください。

※会場は座席のみで机は設置されておりません。

バインダーなどをお持ちになると便利です。

※学生の方は、当日受付にて学生証をご提示ください。

●事情により講師等が変更となる場合があります。

●ご昼食、ご宿泊等の手配は行っておりません。

●個人情報について 受講お申し込みの際にお預かりする個人情報は、受講証の発送、受講料の請求とご入金の確認、次回以降開催のご案内のみに使用いたします。

会場案内図

有楽町朝日ホール(有楽町マリオン11階)



交通

- JR(山手線・京浜東北線)有楽町駅、中央口または銀座口
 - 東京メトロ(丸ノ内線・銀座線・日比谷線)銀座駅、C4出口
 - 東京メトロ(有楽町線)有楽町駅、D7出口
- *いずれも徒歩2分。

ホール入り口

有楽町マリオン映画館チケット売り場横のエレベーター(★)で11階までお越しくください。

プログラム

9:50 10:20 10:30

12:00

13:30

16:30

受付	開会	基調講演	昼休憩	選択講座①
				選択講座②
				選択講座③

(敬称略)

基調講演

10:30~12:00

社会福祉における生と性

—福祉の現場で、「性」と向き合うということ—

田園調布学園大学 名誉教授 ^{あら}荒 ^き木 ^{ちねこ}乳根子

昼休憩

12:00~13:30

12:45~13:15 大ホールにおいて本法人の事業紹介を行います。

義肢装具サポートセンターと障害者スポーツ支援

義肢装具サポートセンター 義肢装具研究室長 ^{うす}臼 ^い井 ^{ふみお}二美男

公益財団法人鉄道弘済会は各種の社会福祉事業を運営しております。

(2018年4月1日現在)

施設別	箇所数
義肢装具製作・リハビリ施設	1
知的障害・自閉症児者施設	9
認可保育所	19
認定こども園	5
児童養護施設	1
福祉所	4
社会福祉専門図書室	1
計	40
老人福祉施設(運営協力)	5
認可保育所(//)	1

公益財団法人鉄道弘済会は公益事業の運営を本旨とする財団法人として、1932年(昭和7年)に設立されました。

本法人の行う公益事業には、身体障害者福祉、児童福祉、知的障害児・者福祉、老人福祉などがあります。民間におけるわが国唯一の切断障害者の総合的リハビリテーション施設や全国に24か所の認可保育所・認定こども園、総合福祉センター「弘済学園」などの福祉施設の運営をはじめとして、社会福祉に関する理論と実践をつなぐ専門誌『社会福祉研究』の発行、視覚障害者用録音図書の製作奉仕者に対する顕彰事業等を行っております。

民間公益事業団体として、その時代の要請に応え、先駆的な役割を果たすとともに、ニーズの変化にも対応し、事業内容の充実に努めてまいりました。これらの公益事業に要する費用の不足分は、資産を有効活用した賃貸事業などの収益事業の益金等をもって充当しております。

選択講座①

社会福祉施設が直面する「性」の問題

—施設ケアにおける「性」と専門職の役割—

生活の場である社会福祉施設では、利用者の性にかかわる要素がさまざまな形で立ち現れてくる。それらは利用者自身の喜びや生きがいとして支援の重要な手がかりになりうる一方で、「問題行動」や「逸脱」として周囲に困難さを感じさせることもある。社会福祉の専門性に根ざした問題への向き合い方が確立されないままに、性をめぐる問題への対応が現場の経験と判断に任されている現状の中で、頭を悩ませている職員も少なくないのではないだろうか。

そこで本講座では、利用者が自らの「生」をより豊かなものにすることを支えるために、施設ケアにかかわる専門職は「性」の問題をどうとらえ、何に、どう取り組んでいけばよいのかを参加者とともに考えていく機会としたい。

児童養護施設一宮学園 副施設長 やま山 ぐち口 しゅう修 へい平
 社会福祉法人南高愛隣会 理事長、精神科医 た田 しま島 みつ光 ひろ浩
 特別養護老人ホーム更科ホーム 施設長 かわ河 た田 けい圭 じ司
 コーディネーター：東洋大学 准教授 はや早 た坂 とし聡 ひさ久

選択講座②

地域生活支援と「性」をめぐる課題

—多様な「性」のあり方を福祉はどう受け止めるか—

在宅ケアや地域福祉サービスが進展する中、「性」をめぐるニーズは地域福祉の課題としても浮上りつつある。「地域共生社会」の実現が政策目標となる中で、社会福祉実践は人が生きていくうえで「性」がもつ意味をより幅広くとらえ、多様な「性」のあり方を踏まえた地域生活支援を模索していく必要があるのではないだろうか。

そこで本講座では、地域の中で、多様な「性」に社会福祉はいかに向き合っていくべきか、具体的な実践事例をもとに参加者とともに考えていく機会としたい。

カウンセリングルームP・M・R 代表、ゲイの心理カウンセラー むら村 かみ上 ゆたか裕
 なごみ訪問看護ステーション、認知症看護認定看護師 や柳 ぎゆう生 たま珠 よ世
 NPO法人ノアール 代表 くま熊 しの篠 よし慶 ひこ彦
 コーディネーター：淑徳大学 教授 むら米 むら村 あみ美 な奈

選択講座③

生と性に向き合うソーシャルワークの最前線

—女性支援の現場から—

従来、既存の福祉制度やソーシャルワーク実践においては、性的な産業に従事している人びと、性的な搾取や暴力、抑圧に晒されている人びとへの対応は非常に手薄な状況にあったと言える。近年、そうした広大な制度の「隙間」を埋め、新たなソーシャルワークの領域・スタイルを開拓する民間主体の活動に注目が集まっている。

そこで本講座では、制度的な福祉が見落としがちな、性にかかわる人びとの悩みや苦しみに向き合う実践に学びながら、「生」と「性」を支えるソーシャルワークの可能性について参加者とともに考えていく機会としたい。

ネコノテ福祉相談所 代表、一般社団法人東京TSネット 理事 おい及 かわ川 ひろ博 ふみ文
 婦人保護施設いずみ寮 施設長 よこ横 た田 ち千 よ子
 NPO法人10代・20代の妊娠SOS新宿一キッズ&ファミリー 代表理事 さ佐 とう藤 はつ初 み美
 コーディネーター：一般社団法人性と健康を考える女性専門家の会 代表理事 たけ武 し子 あい愛

【基調講演】

荒木乳根子 (あらき ちねこ)

(田園調布学園大学名誉教授)

お茶の水女子大学卒業、筑波大学大学院修士課程修了。臨床心理士。川崎市福祉行政心理職、聖徳大学を経て田園調布学園大学人間福祉学部教授。2013年定年退職。日本老年行動科学会常任理事として高齢者介護と性にかかわる事例や調査、日本性科学会セクシュアリティ研究会代表として中高年のセクシュアリティの調査研究に携わってきた。

【選択講座①】

早坂聡久 (はやさか としひさ)

(東洋大学ライフデザイン学部准教授)

淑徳大学大学院博士後期課程満期退学。法政大学現代福祉学部助手、文京学院大学人間学部専任講師、特別養護老人ホーム施設長を経て現職。専門は、高齢者福祉論、福祉経営論、福祉行財政論。著書に『介護福祉産業論－市場競争と参入障壁－』(日本医療企画)、『介護施設の経営と管理』(大空社)、『福祉サービスの組織と経営』(弘文堂)等がある。

山口修平 (やまぐち しゅうへい)

(社会福祉法人児童愛護会一宮学園副施設長)

2000年より、児童養護施設一宮学園に勤務。施設入所を余儀なくされた子どもとの生活を通して、心身のケア・親子関係支援に従事する。その中で子どもの「性」に関する学びを深め、全国各地の施設職員・里親・警察・民生委員・NPO団体などを対象に講演を重ねている。

田島光浩 (たしま みつひろ)

(社会福祉法人南高愛隣会理事長、精神科医)

1974年生まれ。父である田島良昭(社会福祉法人南高愛隣会前理事長)と共に幼少期に入所授産施設「雲仙愛隣牧場」に住み込む。共に生活を送る利用者とのかかわりから精神医療の道を志す。2001年北里大学医学部卒業後、病院勤務を経て、2013年10月より社会福祉法人南高愛隣会理事長。

河田圭司 (かわた けいじ)

(社会福祉法人慈心会特別養護老人ホーム更科ホーム施設長)

1996年明治学院大学経済学部卒業後、社会福祉法人慈心会特別養護老人ホーム更科ホームに介護職員として入職。その後、同法人の特別養護老人ホーム木更津南清苑にて介護課、相談課の管理者を経て、2017年4月に特別養護老人ホーム更科ホームの施設長に就任する。

【選択講座②】

米村美奈 (よねむら みな)

(淑徳大学総合福祉学部教授)

1989年淑徳大学社会福祉学部卒業。同校大学院修了。学部を卒業後に大学病院の医療福祉相談室にてソーシャルワーカー(精神保健福祉士・社会福祉士)として十数年間勤務し、ご本人ご家族の相談支援業務に従事する。その後、2003年に出身校の淑徳大学に講師として入職、2013年から現職となり、勤務16年目を迎える。

村上 裕 (むらかみ ゆたか)

(カウンセリングルームP・M・R代表、ゲイの心理カウンセラー)

2007年にゲイであることを社会で初めて公表するカウンセラーとしてP・M・Rを創業。以降は個人や企業を問わず心の課題の解決と利益の向上に取り組むコンサルタントとしても活動し、多様な人びとの相互理解と共存のため、マイノリティの社会公益性を提唱する。現在では後進育成や研修、執筆も行う。

柳生珠世 (やぎゅう たまよ)

(なごみ訪問看護ステーション、認知症看護認定看護師)

新宿赤十字病院勤務後、至誠学舎東京緑寿園特別養護老人ホームに10年勤務。その後、中野区の訪問看護ステーションに勤務し、2013年認知症看護認定看護師資格を取得、中野区の地域活動にかかわる。認知症カフェ主催、認知症にかかわる研修講師、ファシリテーターとして活動。

熊篠慶彦 (くましの よしひこ)

(特定非営利活動法人ノアール代表)

1969年、神奈川県生まれ。出生時より脳性麻痺による四肢性麻痺がある。医療、介護、風俗産業など、さまざまな現場で障害者の性的幸福追求権が無視されている現状に突き当たり、ノアールの活動を通して身体障害者のセクシュアリティに関する支援、啓発、情報発信などを行っている。

【選択講座③】

武子 愛 (たけし あい)

(一般社団法人性と健康を考える女性専門家の会代表理事)

淑徳大学大学院総合福祉研究科社会福祉学専攻博士後期課程満期退学。社会福祉士。大学等非常勤講師。知的障害者小規模作業所運営を経て大学院に進学。「知的障害者の性」をテーマに研究をする傍ら、NPO法人ライトハウス、「ポルノ被害と性暴力を考える会」にてソーシャルワークおよび共同研究を行っている。

及川博文 (おいかわ ひろふみ)

(ネコノテ福祉相談所代表、一般社団法人東京TSネット理事)

日本社会事業大学社会福祉学部福祉計画学科を卒業。社会福祉士・精神保健福祉士の資格を取得後、グループホームや地域活動支援センターに勤務して障がいのある人の生活支援に従事する。既存の制度を超えた支援の必要性を感じて、2015年より独立型社会福祉士として、障がいのある人へのアウトリーチ支援を行う。

横田千代子 (よこた ちよこ)

(婦人保護施設いずみ寮施設長)

1984年婦人保護施設「いずみ寮」に指導員として就職。1999年施設長に就任。2005年全国婦人保護施設等連絡協議会会長、現在に至る。そのほか、「ポルノ被害と性暴力を考える会」を仲間と共に設立し、ポルノ被害(映像・書籍・AV被害など)を社会問題として取り上げ、未然防止への活動にも取り組んでいる。

佐藤初美 (さとう はつみ)

(NPO法人10代・20代の妊娠SOS新宿キッズ&ファミリー代表理事)

精神保健福祉士・社会福祉士・保育士・幼稚園教諭免許。1975年から34年間、新宿区立保育園に勤務後、2015年まで新宿区立子ども総合センターにて虐待や非行等の相談支援に従事する。2016年、NPO法人10代・20代の妊娠SOS新宿キッズ&ファミリーを設立。

【昼休憩時・鉄道弘済会事業紹介】

白井二美男 (うすい ふみお)

(公益財団法人鉄道弘済会義肢装具サポートセンター義肢装具研究室長)

1984年入会以来、作った義足は1000本以上。1989年よりスポーツ用義足を製作し、1991年に切断者スポーツクラブ「ヘルスエンジェルス」(現スタートラインTokyo)を創設。2000年のシドニー大会よりパラリンピック日本代表選手のメカニックとして同行。義足を通じてアートやファッション界とのコラボレーションなど活躍の幅を広げている。

お申し込み・お問い合わせ先

公益財団法人鉄道弘済会 社会福祉第一部「社会福祉セミナー」係
〒102-0083 東京都千代田区麴町5-1 TEL 03-5276-0325 FAX 03-5276-3606
E-mail fukushikenkyuu@kousaikai.or.jp URL http://www.kousaikai.or.jp/